

# Lab News

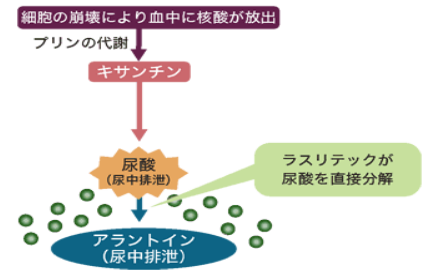
## テーマ “腫瘍崩壊症候群： Tumor Lysis Syndromu(TLS)②

—高尿酸血症に対する治療薬ラスリテックの効果と問題点—

癌化学療法に伴う高尿酸血症の治療薬としてラスリテック（一般名：ラスプリカーゼ）が日本でも昨年10月に承認されました。

### <検査結果への影響>

ラスリテックは採血後、もしくは血液遠心分離後においても、血清、血漿中で時間経過とともに尿酸を分解します。その為、採血後時間経過した検体では尿酸値がみかけ上低値（保存温度により多少の差がみられるが、時間依存性）となります。



当院で経験したラスリテックによる低尿酸血症を認めた症例を図1に示します。症例は69歳女性、非ホジキンリンパ腫治療中の患者です。10月27日よりCHOP療法を行い、LDH、UAの著明な増加を認めなす。高尿酸血症に対し、ラスリテック6mgを10月28日に使用し、29日に提出された検体では尿酸値が0.0となりました。その後、尿酸値は1.2mg/dl(11月1日),1.7mg/dl(11月4日)と低値を示しました。

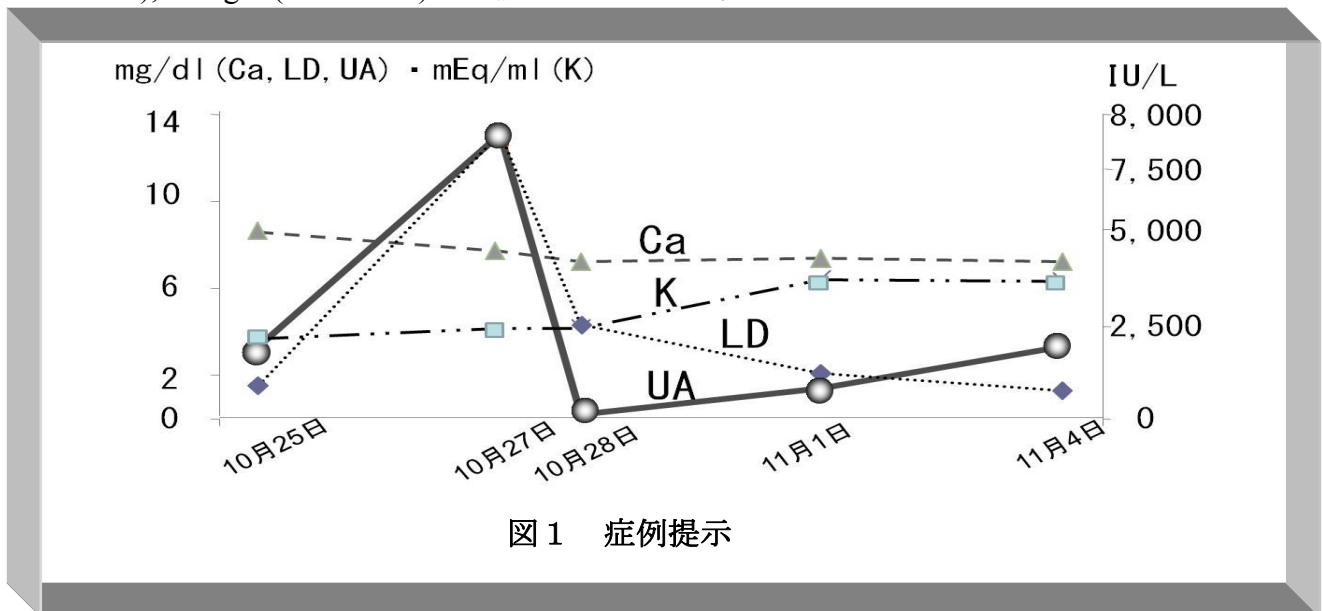


図1 症例提示

### <検査の注意点>

- 1) 高尿酸血症治療薬であるラスリテックは、試験管内で尿酸を分解し、見かけ上の尿酸低値を呈する。
- 2) 採血後、検体は室温に放置せず、氷浴等で保存して速やかに検査室に提出して下さい。